

本を選ぶ

NO. 488 2026年(令和8年)1月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<https://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぼわん>椅子はおもしろい

●北の公民館図書室から

●『ソリアを森へ』

●『Asian Wind／亞洲之風』



●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

椅子はおもしろい

あちこち不具合のある木製の古い椅子が気になって、よく見てみると乾燥が進んでホゾが緩んでしまっているようだ。さらに前の持ち主が施した手当が適切でなかった。ホゾに向かって斜めにネジを打ってある。しかもマイナスネジだ。やっかいな作業になった。

『名作椅子の解体新書』(西川栄明／坂本茂 著／B 5判並製／誠文堂新光社／2020年)は古い北欧のいわゆる名作椅子などを一旦解体して、痛んだところを丁寧に修復しつつ、磨き直して再塗装も施し、原作通りに蘇らせる過程をつぶさに追った佳作である。

きちんと作られた椅子は手順を追って接合部を上手に分解していけば、きれいにバラせると教えてくれる。もともと長く使い続けられるよう修理を前提として製作されているからだ。例えば、まずは部材を痛めないようにゴムハンマーで軽く叩きながら接合部を分解。硬くなって外れにくい接着剤を緩めるためには、ホゾに蒸気を当てながら少しずつ外していくなどの手法を用いる。だからと言ってこの本は単なるハウツー本ではない。外見ではわからないそうした構造や製作上の工夫とか合理性を見出し、デザイナーの意図をくみ取る。

もともとの構造や手法に沿いながら忠実に復元する。つまり原作への尊敬が込められている。

『椅子クラフトはなぜ生き残るのか』(坂井素思 著／左右社／四六判並製／2020年)と言う風変わりな本も面白い。近年、他業種の傾向に反して木製家具製造業で、従業員3人以下の事業所数シェアが増大しているのはなぜだろうか、そして小規模生産はなくなる、という著者独自の問いから出発して専門の文化経済学上の論点を展開する。

大きな家具メーカーの量産ではなく特注家具を製作する小規模な家具工房(椅子クラフト)の椅子という商品には生産や流通をめぐる経済構造に特別な点があるのか。作り手そして購入者にとっての椅子の多面的な特性とは何かを、現物を見比べながら、さまざまな椅子の魅力について語る。

知り合いの木工家は口々に言う。テーブルと椅子6脚セットの注文ならなんとかなる。材料代は別としてテーブルと椅子1脚の製作コストはさほど大きくは変わらない。椅子だけではコスパが悪い。さりとて椅子の製作を止めるわけにはいかない、と。椅子にはそれだけのパワーがあるのだ。

『名作椅子の解体新書』は反響が大きく、評判がよかったとみえて続編が出た。『名作椅子の解体新書 PART2』(西川栄明／坂本茂 著／B 5判並製／誠文堂新光社／2023年)

2冊とも副題が付いている。「見えない部分にこそ技術がある。名作たる理由が、分解する、剥がす、組み立てる、張り替えることで見えてくる！」うまい! ここにも編集者の工夫が光る。(埜村太郎)

北の公民館図書室から

—新人司書の奮闘—

鶴田 夏子

北海道の小さな町で図書館司書として働き始めて約半年経ちました。4年間民間の契約社員として東京都の地域図書館で働き、新天地を求め北海道へ。この公民館図書室の司書は私ひとり。異なる環境での司書業務は新鮮な楽しさと大変さがあります。町に暮らす人あつての図書館、暮らしがあつての図書館。まずは私の住む町をご紹介します。

海辺の暮らし

北海道の中心部から南に約300kmほど、車で5時間弱くらいでしょうか。北海道の南端にあるこの町は人口約3,500人の小さくのどかな町です。

海にも山にも近い町です。天気が良いと、津軽海峡の先に青森県の下北半島が見えます。住宅は海沿いに多く、町の人にとって海はとても身近です。釣り好きな方も多く、絶好のポイントも豊富だと聞きます。

私のアパートからも素晴らしい海が見えます。風に乗って漂う潮の香りやどこまでも続く水平線は幼い頃住んでいた海沿いの暮らしを思い出し安心させてくれます。海面で反射する太陽のパワーは強烈で、カーテンから差し込む朝日はダイナミック。深呼吸したくなるようなすがすがしい景色は大好きですが、まだまだ寝ていたい日は眩しすぎる光に勘弁してと眩します。

新幹線が通る駅があり人流・物流の拠点となっています。札幌へ車で行くよりも新幹線で青森へ行くほうが安く早く着きます。東京にも4時間ほどで着きますから、時間的には札幌に行くのと変わりません。

この町は、いくつかの村が合併して町となり少し東西に長い形をしています。中心部から隣の市へは車で15分、そしてそこからお店があるところへは30分ほどかかります。町内にもスーパーやコンビニ、ドラッグストアはあるため日用品は揃いますが、大きい買い物をするには往復1時間半かかるため東京での暮らしと比較すると不便に感じることがあります。

漁業と畜産が中心産業

この町の中心産業は昔から漁業でした。よく特産物として挙げられるのはひじきやホタテですが、天然のヒラメも採れるそうです。最近はニジマスの養殖事業に力を入れていると地元新聞で取り上げられていました。新規就業者や後継者の減少等により漁業は縮小傾向である点は町の課題のようです。

漁業だけでなく、畜産にも力を入れています。町内の牧場のみで飼育されているあか毛の国産牛はブランド和牛として町の重要な特産品です。ふるさと納税の返礼品としてこの和牛を使ったハンバーグがあります。勿論道の駅でも買えますし、町内のお蕎麦屋さんではこの和牛を使った牛肉蕎麦があります。これが絶品。知人が遊びに来れば、まず最初に紹介するほどのお気に入りです。

少子高齢化

この町の人口は昭和30年の12,926人をピークに減少傾向にあります。平成17年には6,000人を切り、現在では3,500人弱となっています。高齢化が進んでおり、病院の近くにグループホームなどの福祉施設や役場があります。図書室のある公民館は新幹線の駅を挟んで山側、病院や役場などの主要な施設がある海側とは反対に位置するため、高齢者にとってアクセスが良いとは言えません。

5校ほどあった小学校もどんどん閉校していき、今では1校のみです。中学校も町内に1校だけです。高校も以前はありましたが、閉校してしまったため、中学校を卒業後は電車やバスなどで隣町や大きな市の高校に進学するそうです。

図書室のある公民館は小学校よりも中学校に近いですが、学生の利用はほぼありません。公民館の隣接施設であるスポーツセンターや、一時休憩の場として公民館のロビーにいる姿を見かけます。いつか図書室に来てくれればなあと思いつつ中学生らしい楽しそうな声を聞きながら今はまだ眺めるばかりです。

昭和53年に建てられたこの公民館は2階建ての造りで講堂や大会議室のほか、1階と2階に一部屋ずつ和室があり、調理室もあります。ヨガや書道、絵手紙など様々な町内サークルの活動場となっています。年に一度町内の文化祭があり、スポーツセンターの体育館が文化サークルの作品展示場所となりました。図書室も同じ場所で古本市を開催します。町内の方々と交流しながらじっくり作品鑑賞ができる貴重な機会でありとても楽しいひとときでした。

図書室は2階にありますが、公民館にはエレベーターがないため、階段を使って図書室に来るのが大変だと高齢の利用者さんがお話されるのを聞きます。ただ場所の問題もあり現状では1階に移動できていません。

公民館の近くには公園があります。冬期は遊具が撤去されてしまいますが、気候の良い時期は幼い子どもや小学生で賑わいます。図書室の窓を開けると子ども達の楽しそうな声が届きます。この子ども達が図書室にきてくれたらどんなに良いだろうか、どうやったら子どもたちが立ち寄ってくれるだろうかと思いを巡らせます。

図書室でのおはなし会は日曜日。終盤になるとだんだん動きたくなってうずうず、外に見える公園が気になってきてしまう子どもも。それでもおはなし会が終わるまではしっかり座って聞いてくれる姿が微笑ましくとてもかわいいです。

寒さ暑さ事情

ここは積雪がかなりある町で、引越してから今までいろいろな人から「雪がとんでもなく降る」という話を聞いています。海と山があるせいでしょうか。一晩でかなり降ることもあり、車が埋まってしまう日もあるようで、今からドキドキしています。私は北海道で生まれ育ちましたが、一晩で車が埋まるほど降ったことはなく未知の体験になります。

道南にあるこの町の最低気温は-30℃までなることはほとんどないらしく、夏の最高気温は最近の異常気象の影響で30℃近くを記録する日が多いです。東京の35℃に比べれば涼しいと思うのですが、

北海道の人たちにとっては28℃でも堪えます。急激な温暖化に対応することが難しく冷房設備が整っていない家庭も多いため、公民館や役場の一室をクーリングシェルターとして解放しています。図書室にもようやく今年のはじめにエアコンがつけました。

初めての選書作業

図書室の広さは188.9㎡で、小学校の教室3つ分くらいのイメージです。蔵書数は約14,000冊で、小説類が一番多くあります。図書システムを導入したのが2年前で、それまではアナログ管理でした。図書室内全ての図書のシステム登録はできておらず、全集関係はまだ手がつけられていません。

一日の来館者はおおよそ10人前後です。高齢の方の利用が多いため、天候が悪いと来館者が減り、午前中は誰も来なかった…ということも多々あり寂しい思いをすることもあります。開館時間は9時から17時で、12時から13時はお昼休憩のため一時閉館しています。土曜日、祝日、第1・3日曜日が休館日となっています。

貸出や返却、利用者登録、書架整理、配架、イベント企画、POP作りと前職の図書館業務内容と変わらないことも多いものの、本の宅配と本の発注作業はこの図書室に来て初めて行うため苦戦しています。特に発注は以前働いていた図書館では中央図書館に選書権限があり、要望を出してもなかなか通らないことが多くありました。いろいろと制約があったとも聞きます。今は私に選書権限があり、比較的自由に本を発注することができます。しかしこの小さな図書室には新刊全点案内などの情報が届かないため、各種出版社の新刊情報を求め休みの日に書店へ出かけ平置きしている本や売り上げランキングなどを見たり、ホームページをチェックしたりして発注しています。限られた図書購入費と情報が手に入りにくい中で町民の方々が楽しめるような本を選ぶことは大変ですが、やりがいのあるとても楽しい作業です。

今回はこの選書について詳しく触れていきます。

(つるた なつこ：公民館図書室)

『ソリアを森へ マレーグマを救ったチャーンの物語』

第1回「10代がえらぶ海外文学大賞」大賞を受賞！

高瀬 めぐみ

2025年7月1日、第1回「10代がえらぶ海外文学大賞」のノミネート作品が発表されました。誰でも参加できる第1次投票で推薦された多数の候補から7作品に絞られた中に『ソリアを森へ』が残っていました。ノミネート作品には、YA向けの本格的な読み物、大人の読書人をも唸らせるような個性的な読み物などが並ぶなか、『ソリアを森へ』は唯一のグラフィックノベルでした。

グラフィックノベルとは、海外のマンガ形式の書籍のことです。複雑な内容や多様なテーマをわかりやすく伝え、身近に感じさせてくれる良さがあります。

『ソリアを森へ』は、作者であるベトナムの自然保護活動家チャーン・グエンの若き日の実体験に基づいて書かれた自伝的な作品です。自然保護という10代にとって身近に感じにくいテーマでも、全ページカラーの絵がつけば読みやすくなります。本作で2023年カーネギー賞画家賞を受賞したベトナム人画家ジート・ズーンによる繊細かつダイナミックな絵は、熱帯雨林の温度や湿度、生きものたちの息吹まで伝えてくれました。そして、この強力なペアの作品を、実力派の翻訳家杉田七重さんが訳すことで、みごと10代の方々の心をつかみ、第2次投票の結果、大賞に選ばれたのです。

主人公のチャーンは、8歳のときに、縛られて胆汁を採取され苦しむクマを目撃したことがきっかけで、野生動物保護の道に進むと心を決めます。そんな決意に対して、まわりの大人は「子どもじみた夢だ」「野生動物の保護活動なんて時間と金がある西洋人がすることだ」「女の子は勉強して大人になったら結婚すればいい」と否定的なことばかり口にししました。それでもあきらめないチャーンは、苦手な英語を学び、体を鍛え、知識を蓄えました。

ボランティアとしての就労を毎年志願し続け、ある年、とうとう採用通知が来ます。そのときの

チャーンが天にこぶしを突き上げジャンプするシーンは、前半で特に印象に残ります。

自然保護区での念願の仕事がスタートしました。そこにやってきたのが、生後2週間で親を殺されたマレーグマの女の子ソリア（太陽）です。チャーンは、「ソリアを育てて森にかえす！」と高らかに宣言します。

本来なら親から自然に学ぶ、食べ物の見つけ方や獲物の捕らえ方、身を守る方法などを全て人間が教えてあげなければ、ソリアは森で生きていけるようになりません。チャーンはソリアと共に保護区の森

で暮らし、経験を積ませていくことにしました。

それと並行して、ソリアをかえす森探しにも駆け回ります。ダムの放水のたびに水没してしまう森では生きられません。森林伐採が進み、巨大なリゾート計画の看板が立つ

森は、もはや森とは呼べません。やっと見つけた美しい森は、密猟者の仕掛けた大量の罠のために、生き物たちがいなくなった森でした。はたしてチャーンは最適な森を見つけ、ソリアをかえすことができるのでしょうか。続きは本でお楽しみください。

第2次投票の際、10代のみなさんがコメントを寄せてくれました。「絵があってわかりやすかった」「ソリアがかわいかった」というひとことコメントや、「人間が自然とどう関わるべきかを考えさせられた」というコメントなど様々で、10歳から19歳まで幅広く投票してくれたことがわかりました。

授賞式で、翻訳の杉田さんが「この賞がきっかけとなり、10代の方が読書の楽しさを知ってくれたら嬉しい」とスピーチしていました。会場の全ての参加者が同じ気持ちだったと思います。この先も「10代がえらぶ海外文学大賞」が盛り上がるよう、良い海外文学を出版し続けることで、貢献したいと考えています。

（たかせ めぐみ：鈴木出版編集部）



『Asian Wind／亜洲之风』

アジアと日本、そして世界をつなぐ「風」のように

齋藤 眞苗

私たちは、アジアについて、どれほど知りどれほど理解しているのでしょうか。

日々、ニュースやSNSを通じて、世界の政治や社会、経済の動きに触れる機会は数多くあります。しかし、その出来事が、なぜ起きたのか、どのような歴史的背景や社会の積み重ねの上に成り立っているのかを、立ち止まって考える時間は決して十分とはいえません。

『Asian Wind／亜洲之风』は、こうした問いかけを出発点として、2025年7月に創刊された霞山会の教養情報誌です。東アジア、東南アジア、南アジアをはじめとする広大なアジア地域を対象に、社会、文化、歴史、思想、国際関係など多様なテーマを取り上げています。研究者や実務家、現地に根ざして活動する専門家の知見をもとに、専門的でありながらも、できる限り分かりやすくお伝えすることを心がけています。

本誌が大切にしているのは、出来事を「点」で捉えるのではなく、時間と空間の広がりの中で「文脈」として理解する視点です。日々報じられるニュースの背後には、長い歴史の積み重ねや社会制度、人々の暮らしや価値観があります。

『Asian Wind／亜洲之风』は、こうした背景に目を向けることで、アジアの現在を、より深く多面的に考えるための手がかりを提供します。また、一冊の中に日本語と中国語のコラムを併載することで、異なる言語や立場からの視点が交差する誌面づくりにも挑戦しています。

ここで、本誌を刊行する霞山会についてご紹介します。霞山会の源流は、19世紀末に設立された「東亜同文会」にあります。国際秩序が大きく変動する時代に、アジアの将来を自らの課題として捉え、知識人同士の交流を通じて東アジアの平和と協力を模索するため、「東亜同文会」は明治31年（1898年）11月、近衛篤磨公爵（当時の貴族院議長）を会長として発足しました。

戦争と国際環境の大きな変化を経て、「東亜同文会」は1946年に解散を余儀なくされますが、その理念や長年にわたり培われてきた人的・文化的な

ネットワークは途切れることなく受け継がれてきました。1948年には「霞山倶楽部」が設立され、1958年に現在の「霞山会」へと名称を改めます。以来、霞山会は、アジアの人々との相互理解と協力を基盤に、人的交流事業、講演会・研究会の開催、出版活動などを通じて、知的交流の場を広げてきました。

時にすべてを揺り動かす嵐のように、また時に渡り鳥を

導く穏やかな風のように、『Asian Wind／亜洲之风』は、変化の激しい時代の中で、アジアをめぐる思索と対話を静かに促す存在でありたいと考えています。ひとつひとつの記事や特集が、読者の皆さまにとって、アジアをより身近に感じ考えを深めるきっかけとなることを願いながら、本誌はこれからも読者の皆さまとともに歩み続けていきます。ぜひお手に取ってご覧ください。

（さいとう まなえ：霞山会）



季刊 年4回（4月・7月・10月・1月）発行

ISSN：2760-2559

右から開くと日本語、左から開くと中国語。両開きのユニークな構成。「アジア美食館」は日本語ページでは日本食以外のアジア料理を、中国語ページでは日本食を紹介するなど対訳にとどまらない工夫満載。

エリザベス・ロイド／網谷祐一 訳
哲学者、
女性のオーガズムの
進化にいどむ

進化学にひそむバイアスの物語 痛快な
知的興奮の書。 4400円



マキシム・グリーン／
木村浩則・鈴木大裕 訳

自由の弁証法

米国教育哲学のレジェンド、マキシム・
グリーンの代表作、初翻訳！ 3850円



勁草書房 TEL 03-3814-6861 *価格税込
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

移民が増えて、 いいことって何だろう？

対話と議論にむけた12のギモン

佐藤友則 著

◎2200円

このクソみたいな社会で “イカれる”賢い女たち

理解されない苦しみ、女性のうつ病

ハミナ 著 ワタリドリ 訳

◎2420円

群れから逸れて 生きるための自学自習法

向坂くじら、柳原浩紀 著

◎1980円

無知学への招待

〈知らないこと〉を問い直す

鶴田想人、塚原東吾 編著

◎2970円



明石書店 〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5
TEL 03-5818-1171 FAX 03-5818-1174 〈税込〉

財政学 課税と給付の経済学

林 正義 著

財政学の第一人者が、東京大学での講義をもとに書き下ろした本格的体系書。課税と給付を軸に据えて、実証研究の成果も反映させつつ、理論と各種の制度を深く、そして丁寧に解説。多様な課題についても独自の視点で解明した、待望の決定版テキスト。A5判 定価 4,620円



福祉の世界史

金澤周作・帆刈浩之・松沢裕作・三浦 徹 編

「適切な生存・生活」の追求すなわち福祉を、政治・経済にも比肩する歴史の基底と捉え、先史から現代まで全地球的に通観。地域ごとの通時的な「経系」、地域を超えた共時的な「緯系」、多彩な「コラム」が編み出す、福祉の織物。A5判 定価 5,940円



有斐閣 東京都千代田区神田神保町2-17 価格は税込
<https://www.yuhikaku.co.jp/>

経済史で学ぶ

社会・経済のしくみ

これから人文・
社会科学を学ぶ人へ

●予価 2420円(税込) 978-4-535-54116-0 (2月中旬刊)

これから本格的に大学で学ぶ人々に向けて、
社会・経済現象のしくみを経済史をベースに
やさしく解説。学び直しにもおすすめ。

中林真幸〔著〕



生成AIにできること、 できないこと

「フランケン怪物」を
飼いならす

藤本浩司・柴原一友〔著〕

テンスル・コンサルティング株式会社〔監修〕 ISBN 978-4-535-79049-0

3月上旬刊
●予価 2530円(税込)

日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
☎ 03-3987-8621 <https://www.nippon.co.jp>

レシタティフ

トニ・モリスン 著 篠森ゆりこ 訳 2090円



彼女が「レシタティフ」を「実験」だと言うなら、
本気でそれを意図しているのだ。
その実験の被験者は読者である。
ノーベル賞作家が唯一書き残した実験小説。

晶文社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11
Tel 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>

ESTRELA

■2026年1月号
No.382/1月10日発行
B5判 64ページ
定価1,205円(税込)

〔特集〕NTA(国民移転勘定)／NTTA(国民時間移転勘定)

■国民移転勘定(NTA)／国民時間移転勘定(NTTA)の政策的含意
——人口高齢社会における財政持続性とジェンダー視点からの考察／
福田 節也 (国立社会保障・人口問題研究所 企画部第2室長)
西村 仁憲 (国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応用分析研究部
研究員)

■NTAから見る現代日本の経済的ライフサイクル：
2014・2019年度NTAデータに基づくライフサイクル勘定の分析／
鈴木 貴士 (国立社会保障・人口問題研究所 情報調査分析部 研究員)

■EBPMの観点からみたNTA：年金、医療、介護データを用いた考察／
西村 仁憲 (国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応用分析研究部
研究員)

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル 5階
TEL : 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>